

涅槃会（ねはんえ）

釈尊は、2月15日、80歳で亡くなりました。釈尊を偲ぶ法要を、涅槃会といいます。「涅槃」を「ネハン」と読めましたか。

この文字は、古代インド語の「nirvana」を、発音どおり漢字に置き換えたものです。「vana」は火を意味し、それは煩惱（ぼんのう）のことであり、「nir」は否定を意味します。従って「nirvana」とは、煩惱のなくなった状態を示します。

煩惱は火の如く燃えあがり、すべてのものを焼き尽くすように、人間を滅ぼしてしまうほど恐ろしい魔力をもつものです。それを断ちきってこそ、安心して生きていけましょう。

煩惱の根本は、「我執」（がしゅう）といわれます。自分へのあくことのないとらわれの心によって、人間は苦しみ続けるのです。

この世で、初めて煩惱に支配されない、影響を受けない方こそ、釈尊そのお方でありました。

昔の時計はネジを巻いて止まったら、またネジを巻いて使用していましたが、今頃では電池を使っているので、ネジを巻く手間がはぶかれ、大変便利になりました。しかし、電池がなくなると時計は突然止まって、動かなくなります。

1日十万回以上も鼓動を打つ私達の心臓も、電池を入れた時計と同じように見えるかもしれませんが、電池にはあらかじめ使用期間が明記してあるから、注意を怠らなければ、いつまでも動き続けれるが、人間の寿命は各人さまざま、定めでないところが時計と違うところです。

年齢の高い順から亡くなるのであったら、時計の電池の使用期間を注意しているのと同じように準備もできますが、「老少不定」とあるとおり、死に年齢の順番はあてはまらないのです。

『仏法者もうされ候。「わかきとき仏法をたしなめ」と候。「としよれば歩行もかなわず、ねぶたくもあるなり。ただわかきときたしなめ」と候。』（蓮如上人御一代聞書）とあります。

仏法を学ぶことによって、人は人となるのです。そして人となって、人として生き・死ねるのです。